

Release Notes

NITRO-SDK

2005/03/11

任天堂株式会社

Version: NitroSDK-2.0

本パッケージについて

本パッケージはニンテンドーDS（開発コード NITRO）のアプリケーションを開発するための基本ライブラリセットです。NITRO のアプリケーションの開発効率を高めるためにさまざまな API が用意されて、ハードウェアレジスタを抽象化し、視認性の高いソースコードを作成するお手伝いをいたします。またメモリや割り込みなどのシステムリソース管理の標準的な機構をご提供いたします。

パッケージに含まれるもの

- NITRO-SDKライブラリ（グラフィックス・OSシステム サブプロセッサ用コンポーネント etc）
- オンライン版関数リファレンスマニュアル
- NITRO機能別デモプログラム
- 開発ターゲットの切り替えを統合したmakeシステム

変更点について

NITRO-SDK 2.0 よりニンテンドーDS製品版に対応したライブラリとなっているため、NITRO-SDK 1.2 から、さまざまな点に変更されています。その間にリリースされた個々のパッケージでの変更点については、オンライン関数リファレンスマニュアル中の「NITRO-SDK2.0までの変更履歴」の頁をご参照ください。

主だった変更箇所は以下の通りです。

- IS-NITRO-DEBUGGER 及び ニンテンドーDS ソフトウェア開発用ボード NITRO-TS に対応し、デフォルトのターゲットを TEG から TS へ変更しました。
- ROM バイナリファイルの拡張子を .bin から .srl と変更し、makeルールをはじめとしたビルド手順全般を変更および修正しました。
- NITRO-SDK で配布するサウンドライブラリが2005年02月22日版となりました。
- ワイヤレス通信コントロールライブラリ(WM)が公開され、その上位ライブラリとしてワイヤレス通信駆動制御ライブラリ(WVR)、ワイヤレス通信ブロック転送プロトコルライブラリ(WBT)が公開されました。それに伴い、ワイヤレス通信に対応したコンポーネントとして mongoose, ichneumon が公開されました。また、ワイヤレス通信プログラムの開発をサポートする各種チェックツールDSプログラムが収録されました。
- NINTENDO DS 本体に内蔵された起動プログラム(IPL)とコミュニケーションを行うDSダウンロードプレイライブラリ(MB)、ピクトチャットライブラリ(CHAT)が公開されました。また、本体格納情報を取得する関数が OS ライブラリに追加されました。
- カードアクセスライブラリ(CARD)が公開されました。
- カートリッジアクセスライブラリ(CTRDG)が公開されました。
- パワーマネジメントライブラリ(PM)が公開されました。

- 数学演算ライブラリ(MATH)が公開されました。
- 図形認識ライブラリ(PRC)が公開されました。
- その他、既存の各ライブラリに修正および機能追加が行われました。